

家庭科製作実習における教材開発 —社会に働きかける「刺し子の防災ポーチ」—

Development of Teaching Materials for Home Economics Sewing Classes
—“Sashiko Emergency Pouch” to inspire societal change—

木林 祥子 *¹

Shoko Kibayashi *¹

Abstract

This paper reports on the development of a home economics sewing class titled “Sashiko Emergency Pouch”, highlighting the novelty and educational value of this class as a teaching material.

Results showed that the material effectively supports sashiko instruction, through use of the techniques *hitoharizashi* and grid-printed cloth.

The class was shown to be suitable in light of the current trends in home economics education. It is hoped that “Sashiko Emergency Pouch” will help raise awareness of self-help and contribute positively to society.

Key Words

Sashiko 刺し子 / Home Economics 家庭科 / Disaster Education 防災教育
Development of Teaching Material 教材開発 / Akie Ginza 銀座亜紀枝

*1 愛国学園短期大学

1. はじめに

2023年度に行われた生活やものづくりの学びネットワーク東京実行委員会主催、小中高家庭科教員対象実技講習会において、家庭科授業に活用できる刺し子の作品製作の講習を行った。刺し子の講習が参加者の好評を得ることができたため、2024年度も引き続き刺し子の講習を行うこととなった。私は、この講習会の講師として刺し子の教材を提案することになった。これまで、カルチャースクールや公開講座で社会人を対象に刺し子の講習を行っていたので、同じような教材を提案したところ、「一斉指導がしづらい」、「評価が困難」、など様々なご意見をいただいた。当初提案した教材は、家庭科の授業での活用には不向きであったため、教育現場の現状に合わせた教材を検討しなおすことになった。小・中・高・短・大と様々な所属先の参加者が、それぞれの教育現場で生かすことのできる教材を提案することの難しさと格闘しながら、実行委員の先生方および教育図書株式会社の方々と試作検討を繰り返し完成した教材を報告する。

2. 研究目的

本稿では、まず、家庭科の製作実習のために開発した教材「刺し子の防災ポーチ」についての報告を行う。本教材は、2024年度に行われた、生活やものづくりの学びネットワーク（以下「生活ネット」）東京実行委員会主催、小中高家庭科教員対象実技講習会（以下「実技講習会」）において使用した教材であり、筆者が生活ネット東京実行委員会及び教育図書株式会社と共に研究開発を行った教材である。

次に、本教材の新規性、教材としての妥当性について、文献調査を用いて論じる。なお、実技講習会終了後に行ったアンケート調査の結果の分析、教育現場での実施を通しての、本教材の学習効果、有効性についての検証は、次号以降で行う予定である。

3. 「刺し子の防災ポーチ」製作キット概要

3-1. 教材の設定

(1) 製作の所要時間

実技講習会における製作時間は2時間30分～3時間と設定し、刺し子から仕立てまで時間内で完成できるようにキットの製作を行った。学校教材としては4～5時間の実習時間を想定して開発した。



図1 刺し子のポーチ

(2) 教材のねらい

ポーチは大きさ縦12cm×横16cm、ファスナーで開閉する。刺し子は両面にできる。裏地なしの1枚仕立てで、全て手縫いで製作する。完成したポーチには、0次の備え^{注1}として各自が必要な7つ道具^{注2}を入れ、いつも使うバッグ等に入れて携帯することを想定している。

教材のねらいは、①自分で製作した作品に愛着を感じ携帯することで、災害に対する自助意識を高める、②自分で製作し携帯している防災ポーチを人に見せたいくなることで防災意識を広げる、③刺し子には家族の無事を祈る思いが込められていることから、家族や大切な人へのプレゼントとして制作することもできる、④洗うと消える方眼ガイドを利用した、簡単、きれいな手縫いでのファスナー付けの方法及び、布端の始末として袋縫いの方法を学ぶことができる、⑤方眼ガイドを活用し、多くの古典柄からオリジナルの創作柄まで、応用・発展することができ、児童・生徒の関心、意欲、創造性を育むことができる、の5つとした。

(3) キットの内容

キットの内容は、刺し子用の方眼プリント布（株式会社自然堂製、洗うと消えるプリント布、縦25cm×横20cm）1枚、刺し子用針1本、16cmファスナー（黒）1本、解説書（教育図書株式会社作成、A3両面）1枚である。刺し子用の糸は別売りで学級単位等で購入し色を選べることを想定している。実技講習会においては、（株）自然堂製の刺し子針と刺し子糸（草木染）及び縫い針と縫い糸、長針用指ぬきを使用した。ファスナーと刺し子糸の色を選べるようにした。

(4) 解説書

解説書の作成は、筆者監修、亀井佑子本学特任教授助言のもと、教育図書株式会社が行った。冒頭に教材に込めた思いとして以下の文章を記載した。

「刺し子とは、補修・補強・保温を目的として布地を木綿の糸で繕う技法です。刺し子は貧しい生活を生き抜くための技術でしたが、単に繕うだけでなく、少しでも美しく刺そうと、さまざまな模様が創り出されたことも特徴です。それぞれの模様には、家族や大切な人の安全や健康への祈りが込められました。日本では東北地方の刺し子が有名ですが、同様の技法は広く世界の多くの国で見られます。様々な時代の様々な地域の刺し子には、それぞれの地で暮らす庶民の知恵と祈りが込められています。

現代の刺し子には、補強・保温などの目的はありませんが、刺し子には社会に働きかける力があります。2011年、東日本大震災の後、被災地での雇用創出を目指して、また、避難所生活での喜びや希望になればという願いを込めて、刺し子をはじめとする、さまざまな手芸グループが誕生しました。刺し子が新たなコミュニティを創出したのです。

さて、刺し子の防災ポーチは、どのように社会に働きかけることができるでしょうか？防災について共助・公助は大切ですが、何より大切なのは自助意識です。刺し子のポーチが、震災を忘れない気持ちと、自分の命は自分で守るという自助意識を高めることにつながれば、それは社会への大きな働きかけになります。ぜひ、完成したポーチを携帯することで、社会の防災意識を広げてください。家族や大切な人へプレゼントするのも素敵です。必ずあなたの想いが伝わります」。

解説書には、製作の要所に動画のQRコードを掲載している。また、非常時の行動や避難場所、緊急連絡先を記入して切り取ることでできる防災カードを添付している。

3-2. 製作手順

(1) 刺し子をする

解説書に掲載してある2種類の図案のうち一つを選択する。両方の図案を選択し、両面に刺し子をすることも可能である。自身で模様を考えることも可能で、その場合は、デザイン用方眼用紙に図案を描く。決定した図案をチャコペンやフリクションペンを用いて、直接方眼布にしるしをつけ、刺し子をする。刺し子は図案によって、1本どりまたは、2本どりで製作する。

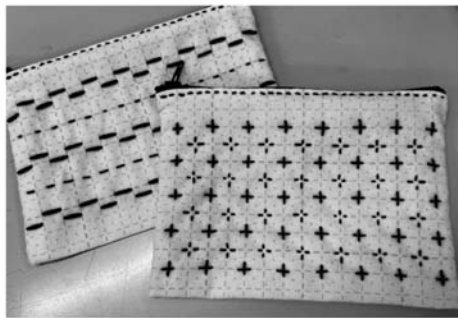


図2 図案1(左)と図案2(右)

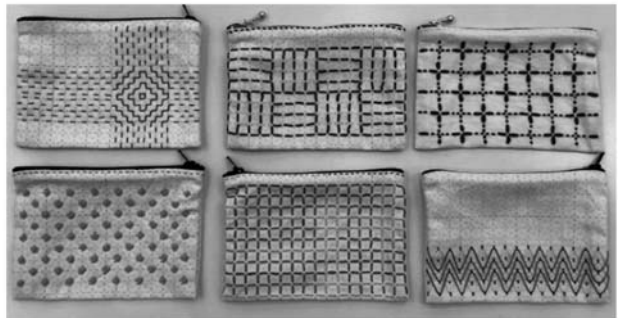


図3 図案例

(2) 手縫いによるポーチの仕立て

①ファスナーを縫い付ける

布の両端を約8mmのところを折り、ファスナーにまち針でとめる。方眼ガイド線に沿って、半返し縫いで片側ずつ縫い付ける。

②脇を縫う

脇は袋縫いにする。まず、外表に合わせて両端から5mmのところをなみ縫いで縫い、次に、ひっくり返してファスナーを開けた状態で中表にし、両端から1cmのところをなみ縫いで縫う。表に返し、形を整える。

③水洗いして方眼ガイドの線を消す。乾かしてアイロンをかける。

4. 教材としての妥当性と新規性

4－1. 刺し子の技法「一針刺し（一目刺し）」を題材としたことについての新規性

(1) 生徒の創意工夫を生かす「一針刺し」の技法

拙稿「刺し子の技法『一針刺し』の調査」において、家庭科製作学習の題材として刺し子が選択される理由、刺し子の学習効果等について調査を行った。刺し子は、教材会社から多種多様なキットが販売されており、学習効果も高く、多くの学校で衣領域の製作実習として実施されているが、近年流行している「一針刺し」については、教材の種類が非常に少ないことを示した¹⁾。

「一針刺し」とは、縦、横、斜めと一方向に刺し進むことで模様を創り出す技法のことで、現在、小・中・高等学校の家庭科の授業で多く行われている「模様刺し」とは異なる技法である。一針刺しは、縦、横、斜めの組み合わせで様々な図案を描くことができる。針目を増減したり、位置をずらしたり、さらにその上に糸をくぐらせることで、アレンジは無限に広がる。前掲拙稿において、刺し子の書籍を調査した結果、近年は、一針刺しについて紹介している書籍が多く出版されていることがわかった。また、書籍では、伝統模様だけでなく、刺し子作家が考案、創作した図案が多く紹介されていることを示した。調査を通して、一針刺しが支持される理由の一つに、「デザインを創出する楽しさ」があると考察した。

現在販売されている刺し子の教材は、ほとんどが模様刺しの教材で、プリントされた伝統模様をプリント通りになぞり刺し子をする。模様刺しの教材の場合、生徒の創意工夫を生かす例としては、洗うと消えるプリント布のどこを刺し子するかを考える、刺し子糸の色を考える、自分で描いた絵を布に転写し、細かいなみ縫いで絵をなぞる、といった例がある。自分で絵を描く例では、絵の得意な生徒は創意工夫できるが、絵の苦手な生徒は創意工夫が難しい。それに対して、一針刺しの教材の場合は、縦、横、斜めと、直線を組み合わせて模様をつくるので、絵が苦手な生徒にも創意工夫がしやすいと考える。

(2) デザインの創出を促す方眼プリント布及び銀座亜紀枝の刺し子の技法

本教材で使用する方眼プリント布は刺し子作家銀座亜紀枝が一針刺しのために考案し制作したプリント布である。同様のもので、もう一種類、斜眼プリント布もある。これらのプリント布を使用することで、多くの伝統模様を、簡単に正しく美しく刺すことができる。

拙稿「伝統と現代をつなぐ刺し子作家銀座亜紀枝の技法」において、銀座の刺し子の技法について説明している。そのうちの一つは、刺し子の針目の特徴である。伝統的な刺し子が、同じ針目の細かいなみ縫いの連続で模様を創り出しているのに対し、銀座の

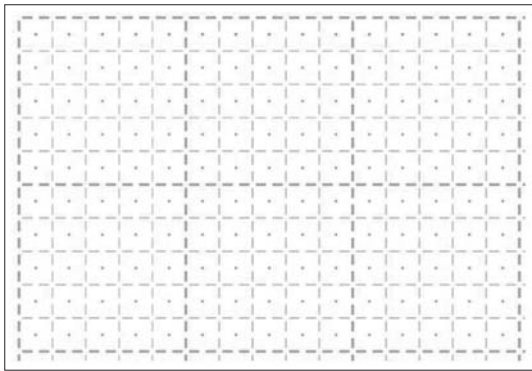


図4 デザイン用方眼用紙
(出典) 教育図書株式会社作成解説書

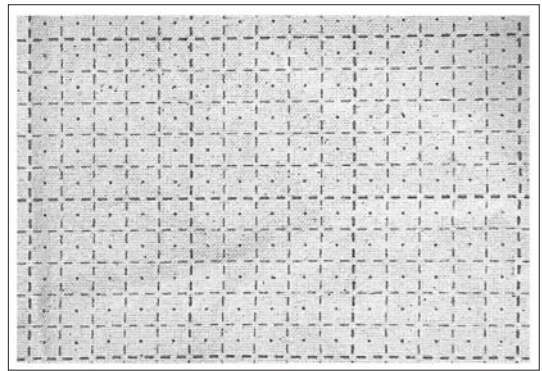


図5 株式会社自然堂製方眼プリント布

刺し子は、ひとつの作品の中に、1mmほどの小さい針目から15mmほどの大きな針目まで、また、1本どりから4本どりまで自在に取り入れている。その技法によって、作手の個性や自由な発想が生かされた作品が数多く生み出されている²⁾。

この技法は一針刺しにおいても、無限ともいえるオリジナル模様を生み出すことを可能にしている。銀座は『刺し子の技法』において、一針刺しの刺し方を次のように説明している。「昔のものは、ごく限られたパターンのみです。そこで私は、縦・横のぐし縫いに加えて斜め縫いや、5mm針、1cm針と針目をリズムに乗りながら変えて、たくさんの新しい模様を生み出しました。(略)一針刺しは、一針を1～1.5cm位まで大きくして、2本どりで刺しても、大胆で美しいものです。応用してみましょう」³⁾と、新しい模様を創り出す提案をしている。

さて、2023年度の学校教材カタログにおいて一針刺しのキットを販売している会社は、前掲拙稿の調査によると7社中2社のみであった。教材は、ふきんとコースターのキットであった。それらのキットはどちらも刺し子柄がプリント済みであった。これでは、せっかくの一針刺しの楽しさを実感できない可能性がある。

一針刺しの魅力の一つとして、簡単な技法を繰り返しているうちに模様が浮かび上がってくる驚きを挙げることができる。カタログに載っていた教材のように、最初からすべての模様が印刷されていれば、それをただなぞるだけなので、新鮮な驚きは生まれない。また、少し針目に変化を与えたり、糸をくぐらせたりすることで、創作の楽しさを味わうことができるのも一針刺しの魅力であるが、それらのキットでは、模様が印刷されている為、自分でデザインを創作する楽しさを実感することができないように思う。

本教材はデザインの例として、2種類の図案を掲載しているが、ひとつは、1本どりと2本どりを組み合わせた図案(図2左)、もう一方は、小さい針目と大きい針目を組み合わせた図案(同右)にしている。方眼プリント布を使用し、短時間でできる簡単な

図案を、糸の本数や針目の長さを変えて刺してみることで、新たな図案を考案する意欲を育むことを目的としている。方眼プリント布を使用し、糸の本数や針目の長さを工夫することで、図案を無限に創り出すことができ（図3）、刺し子をより自由に楽しむことができる。

家庭科では、ものづくりを通して、科学的認識、判断力、創造力の育成を目指している⁴⁾が、近年の家庭科製作実習では、全員が同じような作品を短時間で完成させることが重視され、児童・生徒がつまずかないような易しい教材が模索されてきたことが指摘されている⁵⁾。本教材は、伝統模様を同じ針目でプリント通りになぞるのではなく、デザインの新規性を促し、生徒の創意工夫を生かすという点において、教材としての妥当性と新規性があるといえる。

4－2. 手縫いでのファスナー付け及び布端の始末として袋縫いの技法を学ぶことの妥当性

(1) ファスナー付け

家庭科の教材カタログの調査では、近年、「ファスナー仕立て済み」の教材が主流であることがわかる。ファスナー加工済みを採用しているカタログには、「難しいファスナーが加工済みだから、簡単&時間短縮!」「ファスナー付けは手間と時間がかかるし、生徒にはファスナーを付けることは難しくくて…」という「先生の声から生まれました」とあった。

それに対して、本教材では、手縫いでファスナーを付けるという、近年の教材の流れからは逆行する技法を取り入れている。そこに教材としての妥当性があるのかどうか考えたい。筆者が、それらの縫製方法を取り入れた理由は、「自分にはこんなこともできる」という感動を児童・生徒に味わってほしいからである。先に述べた通り、近年の製作実習では、全員が短時間でできる易しい教材が模索されている。一方、そのような方向性に疑問を呈し、挑戦しがいのある題材への見直しの必要性を訴える意見もある⁶⁾。

生活ネット東京実行委員会では毎年学童保育の小学生に縫い物と編物を教える講座を開催している。2023年の講座では、学童保育の指導員からの提案でファスナー付きのペンケースを指導することになった。参加者は家庭科をまだ習っていない3年生がほとんどであったが、実行委員が作成した製作要項の手順に沿って、全員が2時間程度でファスナー付きペンケースを手縫いで仕立てることができた。筆者はそのことにとても感動し、本教材を手縫いのファスナーポーチとした。この講座での製作要項を基に、本教材では、方眼プリント布のガイド線を利用してファスナーを簡単にきれいに取り付ける方法を開発できた。

東京家政大学教員養成教育推進室年報、第7号、潮田ひとみ「なみ縫い・半返し縫いの効果的な教授法に関する実践的研究」では、小学校のなみ縫い・半返し縫いの指導上

の留意点として、①手縫い前に方眼定規を使用して縫うべき縫い目の長さを破線で記載すること、②表側だけを見て縫うことができるように表に消えるチャコペンシルを用いて印付けを行うこと、の2点が提案されており⁷⁾、縫い物講座及び本教材のファスナー付けも同様の方法であることがわかった。さらに、本教材では、方眼ガイドを使用することで、チャコペンシルによる破線の記載が不要であるため、より簡単なファスナー付けの方法を開発することができた。

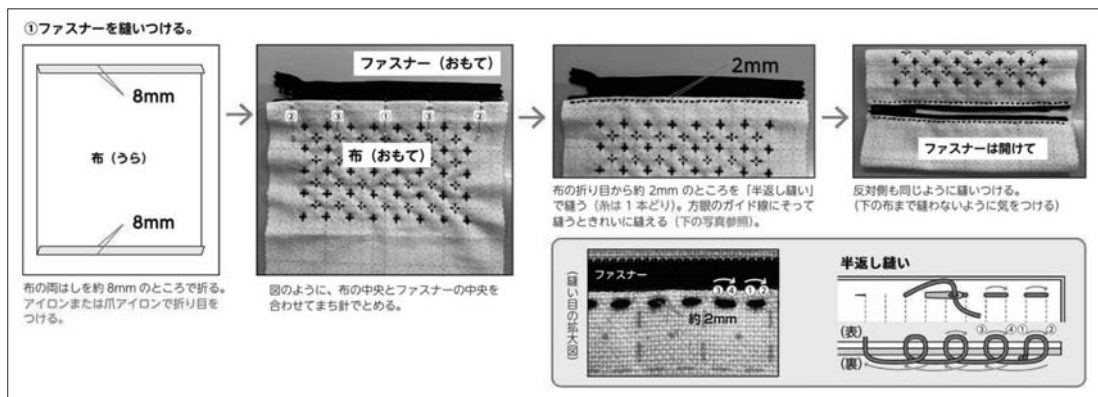


図6 ファスナーの付け方
(出典) 教育図書株式会社作成解説書

(2) 袋縫い

袋縫いについては、近年では、教員自身が経験したことがないとも聞く。しかし、簡単に美しい始末の方法を知ることが、先人の知恵を知り、生活文化へのまなざしを育むことにつながるのではないか。本教材を通して、ぜひ、そのことを多くの人に実感してもらいたいと考えている。

本教材では、簡単な手縫いのファスナー付けを学ぶため、またキットの価格を抑えるため裏地を付けないことにしたが、裏地を付けない場合は、ロックミシンであらかじめ布端を始末しておくが必要になる。そうすると、ロックミシンをかけておく分、キットの価格に人件費が上乗せとなる。そこで、布端を、ロックミシンでなく、袋縫いで始末することを考えた。偶然にも、このように始末することで、方眼ガイドをより活用できることに気が付いた。

ロックミシンで始末された布でポーチを仕立てる場合、中表でわき縫いをするため、せっかくの方眼ガイドが内側になってしまい活用できない。そのため、わき縫いがずれてしまう可能性がある。しかし、袋縫いで始末する場合は、まず外表で袋の形をつくるため、方眼ガイドに沿って布の前後のまち針付けを簡単に正確に行うことができ、仕立

でのずれを防ぐことができる。方眼ガイドを活用した簡単きれいな布端の始末の方法及び仕立て方法を開発することができた。

(3) 一枚仕立て

ファスナー付けや袋縫いなどの技法を学ぶため、また、教材の販売価格を抑えるため、裏地を付けない1枚仕立てとしたことについて、ポーチの内側での刺し子糸の引っ掛かりが気になるという意見が考えられる。しかし、本教材はポーチの使用目的を限定しており、使用目的から考えると、普段頻繁に中身を出し入れするものではないので、内側の引っ掛かりをそれほど気にする必要はない。また、一針刺しの特徴として、表面の刺し子の一針の針目が長いため表面の刺し子の糸が引っかかりやすい、という欠点がある。引っかかって糸が伸びてしまった場合、裏地がついていると修正がとても難しい。しかし、裏地がなければ、引っかかって糸が伸びてしまった場合も裏から簡単に修正ができる。そのような考えから本教材では1枚仕立てを妥当と判断した。

4－3. 衣領域の製作実習と防災を結び付ける教材の妥当性と新規性

防災を題材にした製作実習の教材を調査したところ、教材カタログには、防災リュック、防災頭巾（普段はイスの背もたれや座布団として使用する）、ウォールポケット（ベッドに取り付けスリッパや懐中電灯を備える）、身の回りの物をまとめて保管・持ち歩くにも便利なケース（非常時にすぐ持ち出せるように通帳などの貴重品を入れておく）、2WEYで活用できるポーチ（ひもをはずして防災ポーチ、ひもを付けてサコッシュに）が掲載されていた。授業実践報告では、災害時スリッパとして使えるポーチ、防災頭巾になるトートバッグなどがあった⁸⁾。調査した結果、「防災ポーチ」が製作実習の題材としてカタログに掲載されており、新規性はないことがわかった。しかし、刺し子と防災を結び付けた教材は見当たらなかった。本教材は防災と刺し子を結び付けた教材として新規性があるといえる。

さて、小・中・高等学校における家庭科教育の現状と問題点について、日本学術会議家政学分科会によると、現行学習指導要領（2017－2018年改訂）には、次々と新しく開発される情報や技術を追いかけるような内容が加わっており、グローバル化、少子高齢化、持続可能な社会の構築等の現代的課題に対応する視点からの学習課題が積みこまれ、個人や家族を中心とする生活から、広範な社会課題を含む多くの事項を扱うようになって示されている⁹⁾。超高齢化や少子化の進行、防災、環境問題、消費者教育、グローバル化や持続可能な社会の構築等の広範囲の現代課題への対応が求められながら、高等学校においては授業時間数が半減している状況であり、衣領域の製作実習にあてられる時間も減少している。

本教材は、衣領域における製作実習の教材であるが、住生活（防災）や、伝統的な生

活文化に関連付けて製作することができる。衣領域の製作実習にあてられる時間が減少している中で、他領域に関連付けて効率的に学習できる点で、妥当性のある教材であるといえる。

4-4. 現行学習指導要領の枠組みから見た本教材の妥当性

(1) 生活の営みに係る見方・考え方を働かせる教材

現行の学習指導要領では、育成を目指す資質・能力が明確化され、全ての教科の目標及び内容が、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で整理されている。荒井は全ての教科が同じ枠組みで整理されていることについて画期的であるとしながらも、同じ枠組みであるからこそ、家庭科の特徴と独自性をより明かに認識することが必要であると指摘している。そして、家庭科の授業を行う教師に対して、次の3つの課題を提示している。第1に「問題解決的な学習」のさらなる充実のための授業開発を進めること、第2に、学習内容の総合性を意識し、学習内容と学習の視点を構造的に捉えて領域横断的な学習の具体例を蓄積すること、第3に、他教科との連携を図ること、を挙げている。その3つの課題に加えて、加賀は、保護者や地域、企業などの多様な社会資源と協働し、現代社会の重要な生活課題を見つめ解決策を考えるような授業を開発することを挙げている¹⁰⁾。

一つ目の課題として挙げられている「問題解決的な学習」とは、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら、計画、実践、評価・改善という一連の学習過程を取り入れる学習のことと考えられている。そしてこの「生活の営みに係る見方・考え方」とは、「家族や家庭、衣食住、消費や環境等に係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の4つの視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること」と示されている¹¹⁾。

さて、本教材は、これら3つの課題及び生活の営みに係る見方・考え方に対応できているのかどうか検証してみたい。本教材は、刺し子という伝統技術を扱っているので、「生活文化の継承・創造」に係る内容であるといえる。また、刺し子の本来の役割が、資源を無駄なく使うための補修・補強・保温であることから、かつての刺し子の役割について学ぶことで、「持続可能な社会の構築」の視点を得ることができる。また、災害に備えるポーチであるという点で、「健康・快適・安全」に係る視点を持つものであり、ポーチを携帯したり、プレゼントしたりすることで、社会の防災意識を向上させるという目的がある点において「協力・協働」の視点を備えているといえる。また、学習内容は、衣領域だけでなく、住領域（防災教育）に関わる教材であり、領域横断的な学習方法が考えられる。さらに現代社会の重要な生活課題を見つめ解決策を考えるような授業につなげることができる。

『家庭科 授業の理論と実践』では「家庭科教育の充実を図る指導方法の工夫」の実践例として、「わが家の防災グッズ・防災対策」について考える授業「わが家にズームイン！（防災編）～家庭防災会議で話し合おう！わが家の防災対策～」が挙げられており、「日常生活の中から問題を見出し、より良い生活を考え、計画を立てて実践できる力」を身に付けることができるとして紹介されている¹²⁾。本教材も同様のねらいで開発されていることから、学習指導要領の枠組みにおいて妥当性のある教材であるといえる。

(2) ものづくりの意味を問いかける主体的・対話的で深い学び

前掲書籍において、「主体的・対話的で深い学び」を家庭科の製作実習の中で展開する例として、「やり方を教えるだけでなく、子ども達が考え、納得しながら実習を進めることが大切である。成績評価のために製作し、実習が終われば作品を廃棄するようなことにならないよう、愛着を持って自らの生活で活用できるもの、または誰かのために思いを込めて自ら考えながら制作できるような作品作りに取り組ませたい」¹³⁾とある。

本教材は、その点についても検討をしてきた。本教材を作成する前年の実技講習会題材として「刺し子の巾着袋」の製作を検討した際、実行委員会で、「男子は巾着袋をあまり使用しない」という意見が出た。男子向き、女子向きを意識する必要はないという意見も出たが、この「男子は巾着袋をあまり使用しない」という意見から、児童・生徒が生活で活用できるものを題材とする、という視点の重要性に改めて気付かされた。そこで本教材では、生活で活用する、という視点が重視され、防災ポーチとして使用目的を限定した。題材の設定に際して、「何を入れる袋か用途まで決める必要があるのか」という意見もあったが、生活で活用してもらうため、あえて目的を限定したポーチとした。

防災ポーチとして、目的を限定することによって、「現代社会の重要な生活課題を見つめ解決策を考えるような授業」につなげることができた。このように、製作実習を通して社会課題を扱い、解決策を考えるような授業を行うことができれば、なぜ家庭科の中に製作実習があるのか、どうしてこれほどものをつくらなくてもよい社会において、家庭科でもものづくりを行うのか、ものづくりの意味を、児童・生徒に問いかけることができるのではないだろうか。

5. 社会に働きかける教材

5－1. 刺し子の持つ社会的価値

近年は、世界的規模で手芸ブームが広がっている。現在の手芸ブームの特徴は、まず、手芸が稼ぐことができるものになってきた点を挙げることができる。手芸文化をジェンダー視点から研究している山崎明子によると、手芸はもともと、「家庭的」や「女らし

さ」という価値観と結び付けられてきたが、現在「手芸」は「ハンドメイド」とその名を替え、男女問わず、気軽に稼げる「商品」として存在感を増しているという¹⁴⁾。

現在の手芸ブームの特徴の2点目は、手芸の持つ社会的価値の見直しが起こっている点である。自然災害後の社会における手仕事の意義について研究している金谷美和は、手芸にはケアとウェルビーイング、人的ネットワークの形成、癒しとしての効果があることを示し、手芸だからこそ生み出すことのできる社会空間、手芸を通じた新たなコミュニティの創出の機会といった手芸の持つ社会的側面を明らかにしている。

金谷は、手芸を通じた社会運動の事例や東日本大震災の被災地での調査を基に、手芸が被災者同士をつなげ、手芸が被災者を外につなげた事例を報告している¹⁵⁾。また、山崎は刑務所で伝統工芸が推奨されることを分析し、手芸が、受刑者が主体的に社会に参加するための手段になることを示している¹⁶⁾。太田はさらに、障がい者福祉施設で伝統工芸が行われていることも、手芸が主体的な社会参加につながる事例として考察している¹⁷⁾。このように、被災地において、また、障がい者福祉施設において、さらには刑務所において、刺し子は継続的に生産されており、刺し子が生産者の主体的な社会参加とつながっている事例が報告されている。

現代の刺し子には、補修や保温などの目的はなくなっているが、今なお社会から刺し子が求められているのはなぜなのか。これほど、ものをつくらなくてもよい社会で、人が刺し子をするのはなぜなのか。ただ単に刺し子が美しいといった外観だけが理由ではないように思う。かつて、布の命をつなぎ、人の想いをつないできた刺し子は、現代社会において、人と人、人と社会をつなげている。それこそ、刺し子の持つ社会的価値といえるのではないだろうか。現代の刺し子が人と人、人と社会をつなぐのならば、刺し子を通して社会に働きかけることも可能である。

5-2. 子どもを介して親を巻き込む防災教育

では、本教材の刺し子の防災ポーチはどのように社会に働きかけることができるのか。片田敏孝『人が死なない防災』には、「釜石の奇跡」がいかんにして起こったかについて釜石東中学校の生徒の行動が示されている。その記載を見れば、中学生の行動は奇跡ではなく、長年の防災教育の結果であったことがよく理解できる。

片田氏が行った防災教育の一つに、子どもを介して親を巻き込む、というものがある。防災教育を受けた子どもたちは次の津波が来た時、必ず逃げることができる、しかし、子どもの親たちは教育を受けていないため、自分が逃げる前に子どもを迎えに来てしまう。迎えに来るとどうなるか、「津波てんでんこ」という言葉は、「家族の絆がかえって被害を大きくする」という悲しい歴史を繰り返した中で生まれた言い伝えなのである。片田氏は、子どもたちに、「僕は絶対に非難するから、お父さん、お母さんも必ず避難

してね」と伝えるよう宿題を出す。一方で、お母さんたちには、子どもたちが家に帰ってきたら、一生懸命「僕は逃げるから」と言ってくると伝え、その背景を説明する。「子どもたちは、お母さんの命を心配しています。自分は逃げるつもりだけど、お母さんは僕のことを迎えに来てしまう。そうすると、お母さんはどうになってしまうのだろう。そこに思いが及んでいるのです。だから茶化さないで、ちゃんと正面を向いて、子どもたちと向かい合って、話を聞いてやってください。そして『絶対にこの子は逃げる』という確信がもてるまで、子どもの話を聞いてやってほしい。確信が持てたら、『わかった。ちゃんと逃げるんだよ』という一言を言ってあげてほしい。それともう一つ。『じゃあ、お母さんも逃げるからね。後で必ず迎えに行くからね』という言葉もかけてください」と伝えている¹⁸⁾。

片田氏は「津波てんでんこ」を次のように説明している。「一つは、老いも若きも一人ひとりが自分の命に責任を持つということ。そうしてもう一つは、一人ひとりが自分の命に責任を持つということについて、家族がお互いを信頼し合おう、ということです。『お母さんはちゃんと逃げているだろう。だから、僕もちゃんと逃げる。そうすれば、後で迎えに来てくれるはずだ』と思えるからこそ、子どもたちは一人で一生懸命に逃げようという気持ちになれるわけです。お母さんの立場で考えれば、わが子の安否を確認せずに逃げるなんて、そうたやすくできることはありません。でも『うちの子は絶対に逃げているはずだ』という信頼があれば、とにかく自分も逃げて、後で必ず迎えに行こう、という気持ちになれるはずです。あるいは、もし気遣うあまり自分が逃げ遅れてしまったら、残された子どもはどうなるのか、ということにも考えが及ぶはずです。家族間の信頼があってこそ、『津波てんでんこ』が初めて実行可能になるわけです」¹⁹⁾。

私は本教材が、このような家族間の信頼を支える役割を果たすと考えている。防災ポーチに必ず入れておいてほしい防災カードは、現在様々な機関からインターネットで無料ダウンロードできるようになっている。NHKのサイトから印刷できるものは、日本語版、英語版、ポルトガル語版、ベトナム語版の4種類があり、家族で書き込んだ後切り取ってそれぞれが携帯できるようになっている。防災ポーチを製作し、その携帯を促すことで、または制作した防災ポーチをプレゼントすることで、防災について家族で話し合う場をつくり出す。子どもを介して親を巻き込み、信頼や安心につながる役割を防災ポーチは果たすことができるのではないだろうか。

なお、解説書冒頭の、教材に込めた思いについて書いた箇所では、児童・生徒の中にはさまざまな境遇の子がいることが想定されるので、家族に限定しない表現の方が良いのでは、との指摘を受け、「家族や大切な人」としている。

5－3. 社会に働きかける刺し子

かつて、刺し子は貧しい生活の中で生き抜いていくための必然から生まれた技術であった。女性たちは祈る思いで刺し、傷んだら繕い、擦り切れたらまた刺す、そういった単調な作業を繰り返し、一枚一枚、いとおむように手をかけ、布の命を長らえさせていた。家族の身を優しく包んだかつての刺し子は、女性たちの知恵と技術の結晶であり、家族への祈りが込められたものであった。つましい女性の思いは、時を超え、形を変えても、針仕事の技とともにしっかりと受け継がれている。世界中で見られる刺し子の伝統は、それぞれの社会の中で、様々なかたちで変化を続けている²⁰⁾。しかし、伝統が変化し、刺し子の機能やデザイン、目的が変化しても、その背景にある家族の絆、大切な人を思う気持ちは変わらない²¹⁾。

本教材が、震災を忘れない気持ちと、自分の命は自分で守るという自助意識を高めることにつながれば、それは社会への大きな働きかけになる。ぜひ、生徒たちには、完成したポーチを携帯することで、社会の防災意識を広げてもらいたい。一針一針、刺し子の製作を進めることを通して、創造の喜びに触れると同時に、何のために、誰に向けて作るのか、ものをつくることの意味を考えるきっかけになればと思う。

6. 結論

本稿では家庭科の製作実習のために開発した教材「刺し子の防災ポーチ」について概要を報告し、教材としての新規性と妥当性について考察した。その結果、本教材は、刺し子の「一針刺し」の技法を取り入れていること、方眼プリント布を使用していることで、刺し子の教材として新規性があることを報告した。また、方眼プリント布が、児童生徒の創意工夫を促す教材であることを示した。次に、本教材が、現行学習指導要領で提起されている4つの視点、「協力・協働」、「健康・快適・安全」、「生活文化の継承・創造」、「持続可能な社会の構築」のすべての見方・考え方をとらえて横断的に実践できる教材であること、さらに、家庭科教育の現状の問題点である、衣領域の製作実習にあてられる時間が減少していることをふまえ、他領域に関連付けて効率的に学習できる教材として実施することができるということを提示し、現行学習指導要領の枠組みと、家庭科教育の現状の問題点からみて妥当な教材といえることを示した。さらに、刺し子の持つ社会的価値に着目し、それを生かすため、教材の用途を防災ポーチと限定し、震災を忘れない気持ちと自分の命は自分で守るという自助意識を高めることにつなげ、社会にはたらきかける教材として開発した。

大本は「家政学の『家政』を『家族および社会への配慮に基づく生活管理、生活経営』と定義づけるならば、将来、市民社会を形成する子どもたちに、『生活主体』として自

己満足的な生活ではなく、社会性のある生活を営む力を育むことにつながっていく。このことが家庭科の意義と特性であり、家政学や家庭科教育が果たす大きな社会貢献といえる」²²⁾と述べている。現行学習指導要領では、個人や家族を中心とする生活から、広範な社会課題を含む多くの事項を扱うようになっており、その対応が求められている。社会性のある生活を営む力を育むため、座学だけでなく、家庭科の特色である製作実習においても、本教材のような、社会に働きかける教材が必要であると考え。家庭科の教育的価値を示すため、家庭科の独自性を大いに発揮できる製作実習における教材を開発することで、家政学としての社会貢献を果たしていきたい。

7. おわりに

本稿において示した教材としての妥当性は文献調査によるものである。実技講習会終了後に行ったアンケート調査の結果の分析、教育現場での実施を通しての、本教材の学習効果、有効性についての検証は、次号以降で行う予定である。この教材が教育現場で取り入れられるようになるためにはまだ多くの課題がある。教育現場での意見、関係する方々の意見を受け止めながら改良を続け、より良い教材へと発展させていきたい。

教材開発に向けて刺し子の研鑽を深める中、刺し子の師である銀座亜紀枝先生の現代刺し子への貢献の大きさに改めて気付かされた。銀座先生が生み出された刺し子の技法が、学校教材に生かされ、さらなる刺し子の普及につながるよう尽力していきたい。

謝辞

刺し子のご指導を頂いております銀座亜紀枝先生に感謝申し上げます。また、銀座先生が考案された刺し子の技法および方眼プリント布を教材開発に向けて使用することのご許可をくださいました銀座先生および株式会社自然堂坂本大策社長に感謝申し上げます。

実技講習会において、快く施設設備をお貸しくださり、様々ご協力いただいております愛国学園理事長織田奈美先生、愛国学園短期大学学長平尾和子先生、事務局長佐々木晃先生、および教職員の先生方に感謝申し上げます。

教材開発に向けてたくさんのご協力とご助言をいただいております生活やものづくりの学びネットワーク東京実行委員長であり本学特任教授でいらっしゃいます亀井佑子先生、および実行委員の田代郁子先生、その他実行委員の先生方、元委員の大久保浩美先生、教育図書株式会社編集部後藤真理子様に感謝申し上げます。

注

- 注1 0次の備えとは、1次の備え（非常持ち出し品）、2次の備え（安心ストック）に対して、いつも使うバッグやポケットに入れて携帯するもののことをいう。備える物品として、子ども用には、家族の写真（探す時のため）、防災カード（身元確認、緊急連絡先等）、マスク、お菓子、10円玉、ホイッスルなどが挙げられる。大人用としては、ミニライト、軍手、救急キット、マスク、携帯トイレ、モバイルバッテリー、お菓子などが挙げられる。
- “減災グッズを備えよう” 2012, 人と防災未来センター,
https://www.dri.ne.jp/wp/wp-content/uploads/bousai_goods.pdf. 参照
- 注2 ポーチに入れるものを「7つ道具」としているが、7つに限定する必要はなく、6つでも8つでもよい。「7つ道具」と呼ぶことで、怪人二十面相における小林少年の探偵7つ道具やサッカーの審判の7つ道具、選挙の7つ道具など、様々な7つ道具を示すことができ、児童・生徒が自身の7つ道具により関心を持つのではないかと考えた。

文献

- 1) 木林祥子. 刺し子の技法「一針刺し」の調査. 愛国学園短期大学紀要. 2024, 第42号, pp.21-36.
- 2) 木林祥子. 伝統と現代をつなぐ刺し子作家銀座亜紀枝の技法. 愛国学園短期大学紀要. 2020, 第38号, pp.45-56.
- 3) 銀座亜紀枝. 新技法シリーズ 刺し子の技法. 美術出版社. 1992, p.75.
- 4) 大本久美子編. 家庭科 授業の理論と実践. あいり出版. 2020, p.81.
- 5) 山中大子. 製作実習における汎用的な能力の涵養ー刺し子製作実習の事例研究よりー. 学校教育学研究論集. 2023, 48, p.67.
- 6) 前掲5. p.67.
- 7) 潮田ひとみ. なみ縫い・半返し縫いの効果的な教授法に関する実践的研究. 東京家政大学教員養成教育推進室年報. 2019, 7, p.114.
- 8) 岩田裕美. 授業実践事例学びが製作に生かせる実感をもてるとともに、工夫する楽しさやおもしろさを感じられる教材の開発：防災ずきんになるトートバッグの開発, 家庭科：ZKK機関紙, 2020, 70巻, 667号, pp.20-23.
- 9) 日本学術会議健康・生活科学委員会家政学分科会. 提言生きる力の更なる充実を目指した家庭科教育への提案ーより効果的な家庭科教育の実現に向けてー, 2018,

- p.5.
- 10) 前掲4. p.85.
 - 11) 前掲4. pp.106-107.
 - 12) 前掲4. pp.126.
 - 13) 前掲4. pp.121.
 - 14) 上羽陽子・山崎明子編. 現代手芸考ものづくりの意味を問い直す. フィルムアート社. 2020, pp.30-46.
 - 15) 前掲14. pp.244-262.
 - 16) 山崎明子. 「ものづくり」のジェンダー格差ーフェミニイズされた手仕事の言説をめぐって. 人文書院. 2023, pp.227-255.
 - 17) 太田明日香. 社会参加するための手芸. <https://kokeshiwabuki.hatenablog.com> 2023.
 - 18) 片田敏孝. 人が死なない防災. 集英社新書. 2012, pp.88-92.
 - 19) 前掲18. p.94.
 - 20) 季刊 銀花. 文化出版局. 1999, 120号
季刊 銀花. 文化出版局. 2006, 147号
徳永幾久. 山形の四季に祈るー衣服にみるくらしと季節ー. 四季の山形新アルカディア叢書. 山形県生涯学習人材育成機構. 1996, pp.45-83.
 - 21) 杉野公子. 刺し子ー変化する伝統ー. 杉野服飾大学・杉野服飾大学短期大学部紀要. 2008, 7, p.13.
 - 22) 前掲4. p.12.

和文要旨

本稿では家庭科の製作実習のために開発した教材「刺し子の防災ポーチ」について概要を報告し、教材としての新規性と妥当性について考察した。その結果、本教材は、「一針刺し」の技法や方眼プリント布を使用している点で、刺し子の教材として新規性があることを示した。また、家庭科教育の現状からみて妥当な教材といえることがわかった。刺し子の防災ポーチが自助意識を高め、社会に働きかけることを期待している。